

2023年度 学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会【最終評価】

2023年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己点検・自己評価項目 【総括】・【課題と改善方策】	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	2022 自己評価	2023 自己評価	学校関係者 評価
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1
1 教育理念目的 育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。 学生向けには「学生便覧」に掲載し、毎年のオリエンテーションにて配布している。講師及び教職員向けには「教育指導要領」に掲載し毎年の講師会議にて配布している。		3	3	3.0
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	教育課程編成委員会や業界講師面談、業界訪問等により、業界が求める人材像を明確にするとともに、教育課程・授業計画等策定に活かされている。特に授業計画については、教育課程編成委員会の意見を反映させ、現場のニーズに合わせて、実践的な策定を行っている。また、各学科において、業界・地域と連携し、産官学協同教育を柱とした授業構築を進めている。		3	3	2.8
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	特色ある教育活動として、新たな価値の創造や業界で生きていく力を身に付けるためにアントレプレナーシップ教育の導入を推し進めている。 ※北海道ハイテク アントレプレナーシップとは 未来を創り、社会を支える人材を養成すべく、アントレプレナーシップの習得を目指す。AIやロボットに置き換わるなか、求められる力も変化していく、新しい価値を創造し、よりよい社会へと変革するリーダーには、課題を主体的に解決して事業を推進していくアントレプレナーシップはなくてはならない能力となります。教科書で勉強するだけでなく、業界・現場において、学習活動を継続的に行うことで、発想力・創造力・問題発見&解決能力・リーダーシップなどの能力を高める教育を構築していく。	アントレプレナーシップは今年度計画立案年度であり、学生を巻き込んだアントレプレナーシップ教育を実施できたのは鍼灸師学科のみであるが、全学科計画を進行している。 鍼灸師学科のアントレプレナーシップでは、鍼灸治療院にて学生が集客活動から考えるなどの学びを展開した。	2	2	2.3
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	常に業界・地域の新しい情報・ニーズを常に取り入れ学科のイノベーションや、新専攻の設置を、スピード感を持って行っている。	近年増加する災害・天災を踏まえ、救急救命士学科内に新たに「レスキューコース」を立ち上げ2024年度より募集を開始する。	3	3	2.8
2 学校運営	2-2-1 運営方針は定められているか	運営方針は事業計画の中で定めている。学校事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決済を受け、承認を得ている。また、学校の事業計画は毎年3月の初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。		3	3	3.0
	2-3-1 事業計画は定められているか	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表し全職員で共有している。		3	3	3.0
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校の意思決定は、毎月定例の運営会議にて行っている。他にも各セクションごとの学部会議、恵庭戦略会議、学科会議等を開催し意思決定を滞りなく行っている。		3	3	3.0
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	運営のための組織図は事業計画に含まれており、3月初旬の研修で共有している。 運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。 学科会議を意思決定の中心に置き、学科運営力を高め、事業計画を遂行出来る組織にする。運営会議(事務局長主催の部署長会議)を運営の核として、事業計画の推進、顧客満足度向上、スタッフのモチベーション向上の企画を立案し、遂行していく。計画遂行の確認のため、常にPDCAサイクルを回す学校・学科運営をしている。		3	3	3.0
	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。また、採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準のもと、厳正に実施している。	学校全体の目標以外に各部署ごとのチーム目標、個人目標を職員全員が設定し公平に評価される仕組みがある。	3	3	3.0
	2-6-1 意思決定システムは確立されているか	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置付けについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。		3	3	3.0
	2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	専門学校基幹業務システム (IBM社製i5 (アイファブ上に構築))により管理。 システムは、①学籍簿管理②時間割管理③成績・出席管理④学費管理⑤各種証明書管理⑦求人企業管理⑧就職管理⑨卒業管理⑩学校会計システム⑪人事・給与システム⑫ファームバンクシステム⑬研修旅行管理システム⑭寮管理システム⑮健康管理システム等により構築されている。	Garoon (グループウェア)、Microsoft 365 及びBOX (クラウドストレージサービス) の導入により情報共有や共同編集等の業務効率がより向上している。	3	3	3.0

大項目	点検・評価項目	自己点検・自己評価項目 【総括】・【課題と改善方策】	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	2022 自己評価	2023 自己評価	学校関係者 評価																																			
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1																																			
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	毎年、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での、意見集約、評価などを踏まえ、教育課程方針を定めている。		3	3	3.0																																			
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年、学期目標」を学生に明示している。また資格取得指導、支援体制も学生に明示して、教育活動を実践している。		3	3	3.0																																			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育課程の編成については、教育課程編成委員会や業界訪問などにおいて、現状のニーズや入学する学生の状況を鑑みながら、養成目的、教育目標の見直しを毎年実施している。カリキュラム、授業形態、時間数などの詳細については、学生便覧を学生に配布し、カリキュラム理解の指導に時間を多く費やしている。また、授業方略については、様々な研修、会議を通じて各教職員が研鑽している。		3	3	3.0																																			
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	教育課程の編成時には、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見や評価、卒業生が勤める業界の方のヒアリング、講師などからヒアリングを実施している。	各委員会でいただいたご意見や評価は、毎年様式4にて反映した内容を掲載している。	3	3	3.0																																			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	キャリア教育のロードマップを活用して指導の方向性を徹底している。入学前の段階から、オープンキャンパスを通じてキャリア教育を行っている。入学後の導入教育計画も作成している。現場実習時の訪問や就職関連行事、離職率調査などの際にヒアリングを実施している。		3	3	3.0																																			
	3-9-4 授業評価を実施しているか	公開授業、又はオンライン授業のレコーディングにより、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。授業評価アンケートも実施し講師会議等で講師との話し合いも行いながら、授業改善に役立てている。		3	3	3.0																																			
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	単位履修、成績評価については、学生便覧内の学則施行細則にて、全学生に配布、説明を実施している。また単位認定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。		3	3	3.0																																			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	学生の受賞や研究実績は随時把握しており、賞や研究の内容によっては卒業時に表彰する形式を取っている。	学生の知識・技術を発表及び評価する仕組みとして、毎年「学習成果発表会」を開催し、講師及び業界人を招き評価をいただいている。	3	3	3.0																																			
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	取得目標資格に向けての内容や資格対策授業については、入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。		3	3	3.0																																			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	資格合格プログラムは毎年見直しを実施。不合格者、卒後指導体制についても、一人ひとりの卒業生の状況に合わせた資格合格プログラムを策定して、万全の体制をとっている。	長期履修制度を設け、課程年数を過ぎた学生においても資格取得のフォローを行っている。	3	3	3.0																																			
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	専門学校設置基準および各養成施設指導要領に従い、資格要件を備えた教員を採用している。学校長、事務局長、教務部長が中心となり、毎年度の事業計画に合わせた教員採用計画を立案、実施している。その際には、様々な団体や業界関係とのパイプを活用して採用を行い、採用規定に準じた採用となっている。		3	3	3.0																																			
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上を目的とした研修は、校内や外部団体の研修会など数多く実施・参加している。担任研修、カウンセリング研修、新入職研修など、経験や部署に対応したプログラムになっている。		3	3	3.0																																				
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	専任教員は毎年校務分掌、担当、役割を明確にし、運用にあたっている。毎年、講師会議を実施し、連携・協力体制の構築、教科間すり合わせなどを実施している。		3	3	3.0																																				
4 学修成果	4-13-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2022年度 卒業者就職率：78.8% 卒業者数：146名 就職者数：115名 求職者就職率：100% 求職者数：115名 専門就職率：98.3% 専門就職者数：113名 2023年度(3/31現在) 卒業者就職率：87.2% 卒業者数：257名 就職者数：224名 求職者就職率：100% 求職者数：224名 専門就職率：98.2% 専門就職者数：220名	ITメディア学科が2年制から3年制へ移行したことなどを含め就職希望者が前年に比べ109名増加したが、年度内には100%の就職内定を達成できた。	3	3	3.0																																			
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	毎年、学科ごとに資格取得率の目標を設定し目標達成に向けての対策を計画・実行している。支援が必要な学生には、正課外の補習、個別対応を行っている。また、学内での国試対策研修実施の他、当法人の教育研究機関であるJESCや、国試対策センターの協力を得て、教員向けの国試対策研修の実施、並びに模擬試験結果を分析しリスク学生や学生ごとのウイークポイントのフィードバックを学科ごとに実施し、学生個々の学習支援に役立てた。また同センターで、学園全体の資格取得率を集約しているため、全国、学園、資格別に合格率を比較出来る体制となっている。しかし2023年度の結果としては、全国平均を大幅に下回る結果となった学科もあったため、国試合格率の回復に向けて対策が必要である。	<table><tr><td></td><td colspan="2">2023年度</td><td colspan="2">2022年度</td></tr><tr><td></td><td>合格率</td><td>新卒合格平均</td><td>合格率</td><td>新卒合格平均</td></tr><tr><td>義肢装具士</td><td>66.6%</td><td>86.3%</td><td>62.5%</td><td>89.6%</td></tr><tr><td>はり師</td><td>93.3%</td><td>85.8%</td><td>70.6%</td><td>85.5%</td></tr><tr><td>きゅう師</td><td>93.3%</td><td>86.2%</td><td>70.6%</td><td>85.8%</td></tr><tr><td>柔道整復師</td><td>40.0%</td><td>84.0%</td><td>72.2%</td><td>65.4%</td></tr><tr><td>救急救命士</td><td>95.9%</td><td>94.7%</td><td>95.1%</td><td>93.5%</td></tr></table>		2023年度		2022年度			合格率	新卒合格平均	合格率	新卒合格平均	義肢装具士	66.6%	86.3%	62.5%	89.6%	はり師	93.3%	85.8%	70.6%	85.5%	きゅう師	93.3%	86.2%	70.6%	85.8%	柔道整復師	40.0%	84.0%	72.2%	65.4%	救急救命士	95.9%	94.7%	95.1%	93.5%	2	2	2.3
		2023年度		2022年度																																					
	合格率	新卒合格平均	合格率	新卒合格平均																																					
義肢装具士	66.6%	86.3%	62.5%	89.6%																																					
はり師	93.3%	85.8%	70.6%	85.5%																																					
きゅう師	93.3%	86.2%	70.6%	85.8%																																					
柔道整復師	40.0%	84.0%	72.2%	65.4%																																					
救急救命士	95.9%	94.7%	95.1%	93.5%																																					
4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生の就職先訪問は社会的状況を加味しながら実施している。研究、受賞、活躍の状況はSNS等を通じて把握している。また、入学案内の作成等を通じ卒業生・在校生・業界関係者のインタビューも定期的に行っている。		3	3	3.0																																				

大項目	点検・評価項目	自己点検・自己評価項目 【総括】・【課題と改善方策】	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	2022 自己評価	2023 自己評価	学校関係者 評価
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1
5 学 生 支 援	5-16-1 就職に関する体制は整備されているか	就職に関する部署はキャリアセンターが名称を変更した「産学・高専連携センター」が担っている。教務と一体になり、学生の就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また学生には、企業(求人)情報の提供や状況に合わせた模擬面接を実施するなど、早期就職内定の向上に努めている。 一方、産学・高専連携センターは定期的に各企業へ訪問し、求める人材や業界動向などを察知し、学校(教務)にフィードバックする体制を取っている。		3	3	3.0
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	年度当初に学科ごとの目標と前年度の退学者の傾向から対策を計画している。また、年度途中においても退学の傾向を分析し、課題改善に努めている。 学生との面談記録は面談シートとして保管され、退学者や理由については月に1回共有する場を設けている。また、年度の終わりには、進級・卒業判定会議資料として進級者名簿・数と退学者名簿・数を報告、保管している。 学生の心理面サポートとして、担任面談やJTSC(カウンセラー)との連携を行っている。 学習面に関し、各学科基礎学力向上や資格試験対策補習の体制を行っている。	2023年度 4.6%(36名/789名) 2022年度 5.2%(36名/690名)	2	2	2.5
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	「滋慶トータルサポートセンター(JTSC)」をグループ校全体利用の学生相談室とし、学生又は担任からの希望により専門カウンセラーによるカウンセリングを受けることが出来る。また、サポートアンケートを毎年実施し精神面に不安のある学生へはJTSCの利用を勧めている。このJTSC利用に関しては、入学式の保護者説明会から案内を行い、ポスター掲示や案内カードの配布等で学生に向け広く紹介をしている。卒業生の相談は卒業学科の職員や、産学・高専連携センターが相談対応をしている。	カウンセラー(臨床心理士)が勤務するSSC(Student Survice Center)が整備されている。	3	3	3.0
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	学校生活における留学生の支援、指導は担任、学生サービスセンター、産学・高専連携センター、学園に国際センターが連携を取りながら行っている。卒業後の支援の窓口は学生サービスセンターが行い、状況把握をしている。指導記録は日本人学生と同様に管理をしている。	英語、中国語を話せる常勤職員を新たに採用し、留学生本人のみならず、その保護者対応も行っている。	3	3	3.0
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	学校が窓口となり、日本学生支援機構の手続きを行っている。災害発生時、家計急変時、速やかに学生の状況確認及び支援を行っている。また、公的奨学金利用者には分割納付の許可をしている。各種支援制度利用に当たっては、申請書類を取り交わし状況把握をしている。その他、学校独自の学費支援制度を募集要項にも記載しており、HPでは保護者からのメール相談も受けている。		3	3	3.0
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健法に基づき4月に全ての学生及び教職員に対して、定期健康診断を実施している。結果は学校医も保管をしており、有所見者、再検査者の対応を行っている。保健室の整備はあるが対応が難しい状況の際には、学校医が速やかに対応をする体制が取れている。 約700名を超える学生を、1人ひとり学内で健診が出来る体制を整えてる。産業医と定期的に会議を行い、時期毎の学生の健康管理対策についてアドバイスをもらっている。本校は医療系の学校ということもあり、近隣の医療機関との交流も深い。		3	3	3.0
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	男女共用寮4棟を有しており、地方からの学生にも対応出来る体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。		3	3	3.0
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動は主に部活動による活動が多く、全ての部活動に職員が顧問として支援している。また、ITメディア学科では放課後を利用して近隣の小学生に対してプログラミング教室を開講しており、学科教員が教室開講の運営をサポートしている。	Dスクール:ITメディア学科が開催しているプログラミング教室。放課後に教室を開放し、近隣の小学生を招き本校学生が講師となり指導するプログラミング教室。	3	3	3.0
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	保護者説明会による学習面、就職面、国家試験、海外研修等の報告を実施の他、必要に応じ、随時、個別保護者相談により各々の問題解決にあたっている。		3	3	3.0
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、産学高専連携センターでは卒業後も就職の支援を行っている。卒業教育も各学科で独自に実施しているが、コロナ禍の影響もあり、積極的な実施には至らなかった。Jキャリアスクールの設置にて卒業生のリカレント教育に力を入れている。	Jキャリアスクールでは、ビジネススキルを中心とした20種類、700レッスン以上のキャリアアップのための講座を設けている。また、鍼灸師学科では、卒業生に対し治療院開業支援プログラム及び再教育を実施している。	2	3	2.7
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	現役の救急救命士を招き、救急救命士学科の卒業生に対してロープレスキュー等の卒後教育・指導を実施している。		3	3	3.0
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	社会人入試制度や単位減免制度を設置し社会人への要望に対応している。		3	3	3.0

大項目	点検・評価項目	自己点検・自己評価項目 【総括】・【課題と改善方策】	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	2022 自己評価	2023 自己評価	学校関係者 評価
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	国家資格系の養成施設として認可を受けており、法令遵守が大前提となり、施設、設備、機器、図書等に関して問題なく整備されている。また、教育活動に必要な設備・備品については毎年計画的に購入及び修繕を行っている。学生サービスセンター及び外部委託にて施設・設備の日々の点検を行っている。		3	3	3.0
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習、インターンシップは、十分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。実習実施に際し、要綱やマニュアル、評価基準を明確にし、受け入れ先医療機関や企業等と綿密な打合せの上、実施している。実習の依頼時には、実習先責任者や指導者との打ち合わせも行い、実習の目的や評価基準も明確にしている。		3	3	3.0
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	所有する敷地・施設が広大なため、消防計画書を作成し、統括防火管理者と各敷地毎(3区画)の防火管理者を選任。年に1度消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。防災、火災についてはその意識を高めることから、訓練を実施し避難手順や方法の指示、防災訓練の映像化(DVD)等も実施している。AEDは設置しており、定期的な救急時における知識の習得と意識付け研修も行っている。	校内の防火管理者の高齢化や退職による人数減少に対処するため、新規で5名の防火管理者を増員し防災意識を高めている。	3	3	3.0
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	施設管理部を設置し、館内巡回や施錠、開錠を実施している。また防犯対策として全校舎に防犯カメラを設置している。授業中の事故等については、映像化したマニュアルを講師会議等で確認している。施錠した部屋の中に更に施錠した薬品庫を置き、管理担当者を置いている。		3	3	3.0
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	高等学校等で実施している進学説明会の積極的な参加や学科職員が行う高校訪問において、本校の教育活動の情報を提供している。また、「5G時代のお仕事BOOK」ツールを基に、劇的に変化するIT社会とこれから注目される「新しい仕事」の魅力を、高校の進路指導部と連携し、授業の時間の中で理解してもらえよう働きかけの活動を実施した。	進路選択早期化に伴い中学生から将来の職業を選択考える機会を設定した。またWEB・SNSや公式LINEによる学科情報配信やオンラインによる個別の進路相談などを実施している。さらに、「5G時代のお仕事BOOK」ツールを基に、劇的に変化するIT社会の環境とこれから注目される「新しい仕事」の魅力を、高校の進路指導部と連携し、高校内で進路を考える授業の教材として活用した。	3	3	3.0
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか	北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、北専各連の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。		3	3	3.0
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。可否の判定体制に関しては学校長・事務局長・教務部長・広報センター長・全学科長により構成される「選考会議」にて可否を確定する。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ総合的に判断している。		3	3	3.0
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	合格者及び辞退者等の現況を示すデータは入試選考毎に蓄積し、適切に管理が出来ている。毎年入学者・非入学者のアンケートを実施し、入学者の傾向の把握に努め、授業方法などの検討材料としている。		3	3	3.0
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	健全な学校運営を継続するためにも毎年、学納金と経費内容の確認を行っている。		3	3	3.0
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項等に通知の趣旨に基づき募集要項に返還の基準を明確に記載している。入学辞退の申し出があった際には個別にも詳細の説明を行っている。		3	3	3.0
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	5か年を見通した事業計画と共に収支予算計画も作成しており、財務基盤の安定に努めている。		3	3	3.0
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。数値は1か月ごとに算定し、学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。		3	3	3.0
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。		3	3	3.0
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	収支予算については学校現場のみならず学園本部も協議しながら作成し、見直しする。そのため予算の本部と現場との認識のずれはない。作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。		3	3	3.0
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会において税務面での報告をしている。		3	3	3.0
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。	自校ホームページ上で財務状況、教育課程を含む運営状況について情報公開を行っている。	3	3	3.0

大項目	点検・評価項目	自己点検・自己評価項目 【総括】・【課題と改善方策】	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	2022 自己評価	2023 自己評価	学校関係者 評価
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	コンプライアンスセンターが法令遵守のガバナンスを図っており、適正な学校運営を行っている。 また、法人本部内にコンプライアンス、労務人事、リスクマネジメント等を管理及び指導する人員を配置しており、学校担当者と連携を取っている。コンプライアンスを一担当者の業務として捕らえず、全体に説明会を行った上で、全職員で取り組んでいる。		3	3	3.0
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	教職員に対して、就業規則等にも個人情報保護を明記するとともに、研修を実施している。また、毎年ITリテラシーテストを全ての教職員・学生に対して実施し、急激に普及し問題となっているSNSIに関しての取り組みも行い、学生教育にも生かしている。個人データの管理取扱い、サイトの運用に関しては、関連企業の協力を得て適正に管理をしている。	一般社団法人日本ブラパシー認定機構(Truste)を導入しており毎年対策の見直しと改善を行っている。	3	3	3.0
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己点検は2003年から行っており、2005年には、自己点検・自己評価についての方針を常務会にて打ち出され、その方針のもと、2006年12月委員会を立ち上げる。私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、本校の自己評価を真摯に行うことを確認した。2007年度以降の事業計画にも反映し、全学で取り組んでいる。		3	3	3.0
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	学校ホームページにて情報公開している。		3	3	3.0
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	学校関係者評価委員会を実施して、選任した評価委員と共に、学校評価に取り組んでいる。		3	3	3.0
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校ホームページにて情報公開している。		3	3	3.0
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	職業実践専門課程の認定を受け、HPで教育内容の情報公開を行っている。教育行事の取り組みは学校ホームページやSNS等でも情報の公開を積極的に行っている。	留学生向けの情報公開として外国語によるホームページやSNSでの発信を開始した。	3	3	3.0
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	職業体験や未来の職業についての講話依頼が多数あり、それらの要望に沿った学科教員が、体験イベントや出張授業、職業説明、出張講話などを実施している。またフーレ恵み野(恵庭市指定管理)では、滋慶学園グループと連携した類を見ない子育て支援を行っている。北海道/ハイテクACアカデミー(北海道唯一の総合型地域スポーツクラブ)ではスポーツ環境を補うべく、アスリートや近隣の小中学生などのスポーツをする人たちに学校や行政と共に、スポーツを通して社会・地域貢献を行っている。	ITメディア学科:有限会社 恒志堂とともに小学生向けのプログラミングスクール(Dスクール)を学校施設で開講し学生が講師役を担い恵庭近隣におけるIT教育で社会に貢献している。 1月には株式会社CDP、札幌市、猟友会とともに農業被害対策のための鹿駆除に参加した。	3	3	3.0
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	新型コロナウイルスが感染症法上5類へと移行したことにより、海外研修を再開した。また、海外とオンラインで特別授業を開講し国際交流に取り組んでいる。	鍼灸師学科:本校の卒業生が講師となり海外とオンラインで結び中国における鍼灸治療の特別授業を実施した。 AIスマートアグリ学科:2023年11月に実施した海外研修で狭い国土の中、水耕栽培を成功させているシンガポールで土地面積のみに頼らない食糧生産技術を学んだ。 また、他学科でも海外研修実施にむけて対策を講じ始めている。	2	3	3.0
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	各種マラソン大会、Redbull400、柔道大会、eスポーツ大会、高齢者健康サポート、障害者スポーツ大会、市民への防火イベントなど学生の日頃の学びを活かしたボランティア活用や、各種大会・イベントの支援を行っている。活動の様子は、学校および学科のSNSでも発信している。	5月:ノーザンホースパークマラソン大会運営ボランティアとして参加 5月:Redbull400にて運営・選手サポートボランティアとして参加 6月:高体連柔道大会にて救護ボランティアとして参加 11月:千歳空港eスポーツチャレンジにて運営ボランティアとして参加	3	3	3.0